

カトリック 仙台教区報

2007年11月4日 No.178

発行
カトリック仙台司教区
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12
Tel (022) 222-7371 Fax(022)222-7378
発行責任 広報委員会
URL ; <http://sendai.catholic.jp/>

若い世代に信仰を伝える

家庭の信仰教育のすすめ

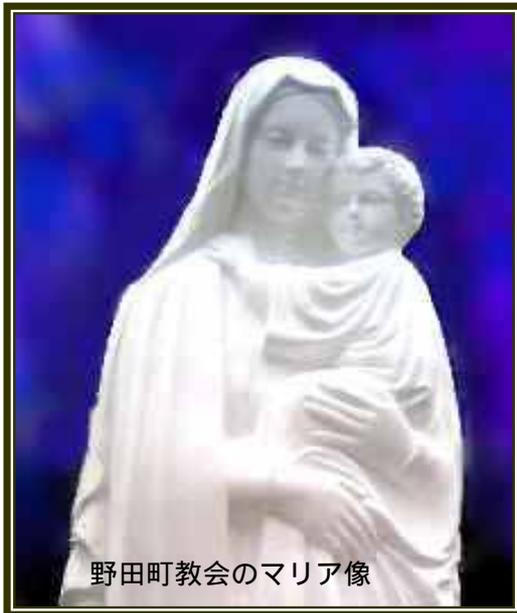
司教神学顧問 佐々木 博

最優先課題の確認

子どもや若者、さらに若い世代の信者の姿を、共同体の中で見出すのは難しくなってきた。たとえば、ある家族は、全員が信者ですが、小学生の子どもたちがスポーツクラブに入ったので、日曜日には練習とか試合があるので親は子どもたちの送り迎えもしなければならなくなり、親子ともども日曜日のミサには参加できなくなりました。あるいは、親が三十歳代の家族ですが、子どもたちには洗礼すら授けておりません。親自身が大祝日にしか、あるいは全く教会に來ないからです。また、特に中学や高校になると部活で日曜日、信者の子どもたちは学校に行かなければなりません。

ところで、家庭では信仰教育がしっかりと実践されているのでしょうか。たとえば、子どもたちが祈るだけでなく、親も朝晩の祈りをする後ろ姿を子どもたちに見せていますか。また、日々聖書を

開いて、みことばを信仰の糧として親子で食べていますか(エレミヤ書15・16参照)。とにかく、教会に子どもたちを連れて行く前に、まず各家庭でしっかりと信仰



野田町教会のマリア像

た」もの、あるいは「受けた」ものですが、それを「伝える」ことをも本来的に含みます(一コリント15・3参照)。ですから、家庭で若い世代に信仰をしっかりと伝えるためには、まず親たちの信仰の実践が問われるのです。子どもが小さい時は、無理やりにでも教会に連れて行くこともできません。ところが、学年が進むにつれて子どもたちの生活自体が忙しくなり、ある時期からは、殆ど教会に行けなくなってしまうという状態です。ですから、子どもたちの年齢に適した信仰教育を、まず家庭でどのように実践するかが肝心であります。

実は、家庭での信仰教育の基本は、すでに旧約時代から確立しております。「今日わたしが命じるこれらのことばを心に留め、子どもたちにくりかえし教え、家に座っているときも道を歩くときも、寝るときも起きているときも、これを語り聞かせなさい」(申命記6・6、7参照)。たとえば、親が子供に毎日、聖書を読んでも聞かせ、子どもと分かち合うだけでなく、信仰は祈りによって育てられますので、日々の祈りを欠かすことはできません。

を生きることができるときの具体的な実践策を必要としています。これから、数回にわたって、子どもや若者たちの、特に家庭での信仰教育という教会の最優先課題について、一緒に考えてみたいと思います。

伝えられた信仰を伝える

パウロが教えてくれるように、わたしたちの信仰は、「伝えられ

塩と光

教会を体験できるのは、なによりも日曜日のミサであります。なぜなら、教会の本質が、神によって呼び集められた礼拝共同体だからです。つまり、神の集会なのです。ですから、エルサレムで誕生した最初の教会が、「彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であつた」(使徒言行録2・42)と集会として描かれております。

この共同体の具体的な体験は、わたしたちの信仰になくしてはならない大切なものです。ですから、この共同体の交わりから離れてしまつたら、信仰を育てるのは難しくなります。つまり、自分の信者籍が残っていても、共同体との交わりがないなら、いのちのつながりが切れてしまうこととなります。「キリストにより、体全体は、あらゆる節々を補い合うことによつてしっかりと組み合わされ、結び合わされて、おのおの部分は分に應じて働いて体を成長させ、自ら愛によつて造り上げられてゆく」(エフェソ4・16)という原理を、具体的にどこまで体験できるかが、まさに根本的な課題であります。(博)

ピアノネ 渡辺 昭一 神父 帰天 司祭生活40年・柔らかに人々を包む神父



仙台教区司祭 ピアノネ 渡辺

昭一神父は、2007年10月4日午後9時26分胆のうがんのため光が丘スベルマン病院にて帰天された。享年74。

渡辺師は、1967年、元寺小

路教会にて司祭に叙階された。学生時代宮城県山元町にある国立療養所に入院中ドミニコ会の司祭と出会ったことで洗礼を受けた。物静かで口数も少ないが、頑張り屋で、やさしく人の心を包み込むやさしさは、多くの信徒から慕われていた。引退後は、登米市にある妹さんのところに身を寄せ、近所のお年寄りと親交を深めるなど地域社会に貢献していた。



10月8日18時から通夜、9日11時から葬儀・告別式が行われた。通夜の説教で佐藤守也神父は、

「神学校では私の4年先輩で、師の姿にあこがれていたが、寡黙な方で、あまり話をしたことはなかったが、師を通して、『私という存在は何なのだろう』と考えさせられた。死は人生のすべてを断ち切るが、神との絆だけは断ち切ることがない。渡辺神父を人生の師として、信仰の姿を学んで生きたいと思う」と話された。

渡辺昭一神父略歴

1933年1月6日宮城県登米市に生まれる

- 55年4月17日 百理教会にて受洗
- 67年7月8日 仙台元寺小路教会にて司祭叙階
- 68年〜70年3月 八戸塩町教会助任
- 70年〜77年 築館教会主任・築館聖マリア幼稚園園長
- 77年〜87年 鮫町教会主任・フアチマ幼稚園園長
- 87年〜94年 一関教会主任・愛心幼稚園園長
- 94年〜96年 石巻教会主任・石巻方トリック幼稚園園長
- 96年〜04年 宮城県南地区担当・大河原カトリック幼稚園園長
- 04年〜05年 五所川原教会主任
- 05年 引退
- 07年10月4日 スベルマン病院にて帰天

訃報



前駐日ローマ 教皇庁大使、現 オーストラリア 教皇庁大使の エム・ブローズ・デ・パオリ 大司教

が、2007年10月10日(水)アメリカ合衆国フロリダ州マイアミのシナイ山病院で、白血病のため帰天されました。享年73。

パオリ大司教は、前仙台司教溝部修師の叙階式に参列のため仙台を訪れている。お祈りください。

アド・リミナに行ってきます 司教 マルチノ 平賀 徹夫



来る12月10日から15日までの1週間、日本の司教団は5年に1度の通称“アド・リミナ”と呼ばれるパチカン訪問に行ってきます。使徒聖ペトロとパウロの墓参して、教皇様に謁見し、それぞれの教区の過去5年間について報告します。教皇様からの特別な祝福をいただいて帰ってくるのですが、教皇様は必ず、仙台教区の司祭、信徒、修道者のみんなに、そして教区内に住むすべての人に祝福をくださるでしょう。また、福音宣教省や他のいくつかの省庁も訪問することになっています。

教区の5年間についての報告書は前もって提出するのですが、5年前(2001年末)と昨年(2006年末)の統計上の数字を比べると、わずか5年の間ながら、大きな変化が現れていました。いくつか紹介しますと...

昨年あたり、日本の総人口が減少に転じたとニュースにありましたが、仙台教区の青森・岩手・宮城・福島4県の総人口は既に5年前から毎年減少していて、合計137,637人の減となっていました。教会内の変化も大きいものです。現役を引退された司祭も含む教区内の全司祭は5年前は59人、5年後は49人でした(そして今年になってから教区司祭が2人、帰天されました)。女子修道者数も304人から279人と減っています。信徒総数は10,887人が10,819人とわずかに減りました。また、顕著に減少しているのが学校関係の数字です。幼稚園(50園)の園児数は5年間で671人の減、小学校(8校)の児童が208人の減、中学生(6校)は234人減り、高校生(8校)は926人の減となっていました。一方、社会福祉関係の施設や利用者数は増加しています。

司祭が常駐できない小教区が増えてきました。常駐する小教区でも、司祭は他の小教区を兼任したり、諸々の働きに時間をとられている現状です。大きな変化の中で、仕事の種類も量も増えてくる現代の世相です。教会全体、司祭も信徒も、今までのまを維持し、続けていく意識だけではもう成り立っていきません。果たすべき役割についての意識の転換を迫られているようです。小教区のあり方を見直し、その連合、再編成も視野に入れた展望を打ち出す必要を強く感じています。わたし達が「キリストの教会」として存在し、成長していくためです。

さらに5年後の報告書を作成するときにはどのようなことになっているのでしょうか。

宣教司牧評議会 定例会

本年度の教区活性化研修会に
向けて協議

9月24日(月)カトリック仙台
司教区センター2階会議室におい
て、定例会が行なわれた。写真。

司会を務めた司教総代理佐藤守
也神父の初めの祈りに続いて、平
賀司教が挨拶し、次の4点につい
て話した。

日本の教会では、日本に暮らす
外国人のための「法」整備につい
て請願も含めて運動が進められて
いる。

日本カトリック部落問題委員会
の委員長を担当することになり、
人権問題としてハンセン病に関す
る問題を扱うことになった。

教会として社会に向かって意見
を表明することは大切なこと。

仙台教区が一致して進むために
宣教司牧評議会が力を発揮してほ
しいこと。

続いて議長に小松史朗師を選出
し議事に入った。

教区活性化のための研修会開催
について、飯塚委員(岩手)より
役員会での検討結果と提案理由の
説明がなされた。

テーマ「教会とは―」サブテー
マ「ともに何ができるか」

講師 平賀司教

時間配分 講話：約1時間、分
かち合い：約1時間、全体で約3
時間(分かち合い、グループごと

のまとめ、全体発表な
どの具体的な実施方法
は、各県の裁量で企
画・計画し実施する)

開催場所・日程・各県ごとに計
画・調整する。

開催時期 2007年11月、
2008年2月中旬

研修結果のまとめと報告につい
ては各県の計画により取りまとめ
宣教司牧評議会への報告は不要と
する。

報告
人権を考える委員会から(園部
委員長)

活動状況についての報告
・4月から委員は10名に増えた。
・平和句間：「平和を祈るミサ」
次第を作成した。

・外国人ヘルプデスクへの対応に
ついて
・部落問題委員会主催の「ハンセ
ン病に関する仙台シンポジウム」
を共催で行なうこと。

・教区報で、ハンセン病に関する
記事を掲載しアピールする。

・広報委員会から(若井委員長)
仙台教区報編集について、第32
回編集委員会記録をもとに報告。

・教区の動きを伝えるようについ
てほしい。編集委員による現地取材
記事を増やしてほしい、等の意見
があった。

宣教司牧評議員の任期検討につ
いて(司教からのお願いととして)
現在2年ごとに信徒の委員が交代



するが、引継ぎなどの点で流れが
途絶えるので、2県ずつづらして
交代するようにしてほしいとの提
案があり、今年度のみスタート時
にさかのぼって任期を青森・宮城
を3年、岩手・福島を2年とし、
毎年半数ずつ入れ替える方法を採
ることになった。

次回定例会日程の変更
2008年3月20日は聖木曜日
に当たるので、開催時間を1時間
繰り上げ、10時～14時とする。

各県現状報告
青森県

・2008年9月7日「県の集い」
開催の予定
・9月9日青森県信徒連絡協議会
活性化研修会について討議し、津軽と
奥州の2カ所開催希望があった。

・青森市内では、浪打教会と本町教
会へ、毎週交代に信徒が移動して合同
ミサを行っている。

・教会統廃合や建物の新增改築・建替
え等についての指針を教区で作成し

てほしい。

岩手県
・2007年度活性化研修会の計画
11月25日開催予定

・2008年度には県大会を盛岡市で
10日開催の予定
宮城県
開催日程・方法など具体的な検討は11
月11日、宮城県教会連絡協議会で行
なす。

・昨年度のテーマを引継ぎ「教会では
教会のために自分は何ができるの
か」のテーマで2007年7月1日に
カトリック宮城県大会を開催した。

福島県
・11月18日活性化研修会開催予定
・10月28日福島県信徒連絡協議会定
例会を開催予定
・9月17日「福島県カトリックの集
い」をいわき教会で実施した。

司教日程 11・12月

- 11・2 部落問題委・事務局会議
- 3 ハンセン病問題シンポジウム
人権を考える委員会
司教評・司祭団役員会
- 6 神学校常任司教委員会
- 9 明星学園創立70周年
- 10 15日韓司教交流会(札幌)
- 13 17カトリック校職員研修会
- 16 教区活性化研修会(郡山)
- 18 宣教司牧評議会役員会
- 24 教区活性化研修会(盛岡)
- 25 部落問題委定例会(東京)
- 29 12・3 仙台教区司祭の集い
- 8 18 アドリミチ(テーマ)
- 24 主の降誕
- 25 主の降誕

「トラピストの祈りの中で」

仙台教区司祭黙想会

10月1日から6日まで、今年
度の仙台教区司祭の黙想会は、北
海道当別トラピスト修道院で
開催された。写真。平賀司教を中
心に18名の司祭が、トラピスト修
道院の祈りに包まれた環境の中
で、修道院の典礼にも参加し、講
話が高橋正行修道司祭。

美しい山を背景に、いくつもの
牧草畑、野菜畑、果樹園さらに墓
地を含む広大なたたずまい、はる
か前方には津軽海峡を見下ろす
ことができる。この広々とした自
然環境は、修道院の祈りによって
潤された心に、まさに創造主なる
神の臨在を肌で感じさせてくれ
る。

日ごろ、忙しい生活になりがち
な教区司祭にとって、トラピスト
での日々は、心身ともにリフレッ
シュする理想的な環境であった。
参加した司祭たちは、いただいた
素晴らしい恵みに感謝しながら、
それぞれ帰途に就いた。(博)



岩手県 中央地区と沿岸地区で交流会

【中央ブロック交流会】

8月26日、四ツ家教会を会場に岩手県中央ブロック（四ツ家・志家・花巻・盛岡上堂・二戸）交流会が開催されました。今回の交流会の企画・準備は、盛岡上堂教会が担当しました。東チモールで働いておられる堀江節郎神父（イエズス会）が、八月末に日本に連れられ



と聞き、当教会とのつながりがあり、支援もしていることもあって、早速打診しましたところ、快く来てくださることとなりました。当日は、約300名が参加され、堀江神父の司式によるミサに続いて、東チモールの現状・教会

の現状」と題して講演をしていただきました。

チモール島は、岩手県ぐらいの大きさで、その半分が東チモール国、国民の96%がカトリック信徒で、家族を愛し、どの家も子供が多いが、貧困を苦にせず、家族のためには何でもするというところがあるということです。

また、チモールに来て日本人は、チモールを良くしようという真心を持って働いているので、現地の人々もそれを感じ取り、日本人に好意を持っているとのこと。

日本の自衛隊が来て、灌漑工事をしたが、途中で帰ってしまい、工事は中断したが、上堂教会をはじめ日本から寄せられた資金で、工事を完成させたというお話もありました。

堀江神父は、現地の神学校の霊的指導者として、司祭の養成に携わっておられ、たくさんの司祭が生まれようとしているそうです。司祭が生まれたら、日本に来て働いてくれるよう勧められているとのことでした。

お話の後、当日の献金（13万円）を支援金としてお送りしました。

堀江神父のご苦勞に感謝し、実りある結果が得られますよ、う心からお祈りしたいと思えます。

この後、地下の会場で、昼食をとりながら懇談しました。堀江神父は「皆さんが、他人を愛し、思いやることができる、宝石のようなお心の持ち主であることができますように」と話を結ばれたが、印象に残る一言でした。

（盛岡上堂教会 田畑建司）
東チモールの独立後、国内の部族間闘争で、家を失くし、たくさんの子供たちを連れて、神学校に避難してきた難民たちと一緒に生活し、飯炊きの煙と、赤子の泣き声の中でミサをささげているというお話を聞きまし

た。「福音を生きる道は狭い道です。キリストとの交わりの中で、隣人の幸せも願って生きるように」と教えていただきました。感動的なお話でした。

（四ツ家教会 大沢俊成）
【岩手県沿岸地区交流会】
「カトリック教会の教え」を考える。

9月30日（日）、久慈教会幼稚園ホールにおいて交流会が開催され、仙台教区長平賀徹夫司教を招き、司祭4名と信徒50名余の参加で最初にミサをささげ、

午後は講話と質疑応答が行なわれた。

ミサでは、その日の福音「金持ちとラザロ」（ルカ16・19）について平賀司教の説教があり、「ラザロは生きていた時に苦しみを受けたから天国にい



たという話ではありません。キリストは、金持ちの無関心を強く問いただされたのです。聖書はとも良い本で、みことばを読み、神のご意志に従うことがキリストを信じることです。聖書に無関心であることは、キリストから離れ、つながっていない枝になります」と教えていただきました。

みことばに関心を寄せ、共に黙想し、共に祈る心が教会活性化の根本であることを思い知らされた。

午後の講話では、「カトリック教会の教え」（カトリック中央協議会発行）の本の説明があり、難しい本なので、何人かを読みながら、分かち合うことを勧められた。第2バチカン公会議（42年前）後には、皆で聖書を読んで、神のご意志を聞くように教えられた。聖書を読み、御父に従うためにどのように生きていけばいいか「カトリック教会の教え」を読むと大変よく理解できると勧められた。さらに、「私は、主について説明できません」とは言えないのです。信じているなら、説明する義務がある。（1ペトロ3・15）聖書を知らなければ説明することも信じることもできない」と、話された。

平賀司教のお話は、聖書から答えを出して「神様があなたにこう言われているのですよ」と聞こえるようであった。

参加した遠野教会の斎藤政敏さんは「参加して司教様の話を聞き感激です。宮古教会の吉田泰子さんは「身近なことを質問し、お答え下さる時も聖書から答えられ、びっくりしました」と喜んでいました。

晴天に恵まれ、参加者たちは喜びのうちに会場を後にした。
（久慈教会 高橋和郎）

「ペトロ岐部と187殉教者」列福式開催日決定

2008年11月24日(月)勤労感謝の日(長崎にて)

教皇ベネディクト16世は、今年6月1日14時(日本時間21時)に日本カトリック司教協議会(会長：岡田武夫、東京教区大司教)がかねてから教皇庁に申請していた「ペトロ岐部と187殉教者」の列福を承認する教令(Decretum)に署名し、これを裁可された。

その後、列福式の開催場所・開催日等について、バチカンの國務省、列聖省、日本カトリック司教協議会で協議され、9月

29日、正式に発表された。

それによると、列福式は、2008年11月24日(月・休日)に長崎において行われることになった。式の主催は教皇庁であり、この式のために教皇特使として列聖省長官が派遣される。

今回の決定を受けて、列福式実行委員会(委員長・高見三明、長崎大司教)では、「列福式がはじめて日本国内で行われることもあり、現在、会場は未定だが、多くの方々の参加が可能な会場

を考えている。今後は列福式実行委員会と日本カトリック司教協議会と密接に連携をとりながら準備していくことになる。」としている。

これに関して、日本カトリック司教協議会会長 岡田武夫大司教は、次のようなメッセージを発表した。

「新福者が殉教を遂げた時代は、政治や社会体制、価値観などが、現代のそれと大きく異なります。しかし、人間の基本的な尊厳と信教の自由を守り抜いたその生涯は、キリスト信者であるか否かに関わらず、現代に生きる私たちにとって希望とな

るか？か？のメッセージを含んでいます。

列福式まであと1年あまり、私たちは、いま、式典そのものの準備もさることながら、日本の教会の偉大な先達が残してくれた遺産のもつ意味をじっくりと深め、自分のものにしていく期間にしていきたいと思っています。日本全国からできるだけ多くの人が、この列福式に参加することを期待しています。」

なお、仙台教区としては、前回の教区報175号でお知らせした「列福式参加ツアー」を再検討し、より良い形で実施したいと考えている。決まり次第、教区報及び教区ホームページでお知らせする予定。

《列福式の成功のために皆様のお祈りと献金をお願いします。》



修道会 Sr 坂上 テツ

修道会に受け入れていたから、今、振り返るたびに、神様の最良の細やかな配慮の中で生かされていることを思っ

て驚くばかりです。修道生活は、別世界のこととあっていて関心もなかったもので、あるとき声をかけられて、「まさか、私

招きにごたえて

15

みにしています。典礼暦に沿ってすべて整えられた生活の中で、自分だけ喜びの中にいていいのかという戸惑いがありました。受洗の恵みも、まったく予測しなかった聖ウルスラ学院に入学させて

いただいたことでした。幼少時代からの疑問や出来事、失敗なども何ひとつ無駄なことはなく、全ては神様の愛のみ業。弱さや欠点いっぱいなのにこの道に招いてくださったのだと思ひ、この幸いな恵みに置かれた所で明るく答えていこうと思ってきました。けれど、も、それも、子供たちの笑顔や優しさも多くの人のお祈りや助け、そして修道共同体に支えられてのことです。どこまでも色々なかたちでいただくばかりです。特に許され受け入れていただくことで、慈しみのみ手の中でともに喜んでくださせていただくことに感謝いっぱいの日々です。



聖体拝領

について

Q. 信者でない方が、間違っ

合は、そのまましておき、ミサが終わった後で、ご聖体の意味を簡単に説明なさるのがいいのではないのでしょうか。そして、拝領は、信者だけが受けることなのだとすることも、お話ししてください。

しかし、未信者のとき、間違っ

つてご聖体拝領をしたことから、それがきっかけになって宗教のこと、キリスト教のことが気になって、勉強して信者になられた方もいらっしゃいます。神が、きっとその方の中で働いてくださることを信じ、その方のためにお祈りすることは大切なことではないでしょうか。また、どうしていいかわからず、手で受け取ってそのまま座席に戻ってきた人に気づいた場合、「カトリックの信者ですか?」とか、「カトリックの洗礼を受けていらっしやいますか?」とお尋ねし、信者でないことがわかったら、「これは信者の人だけが受けるものなので、私にください」と言い、その場で拝領してください。

さらに、まだその方が間違っ

シンポジウム

「ハンセン病とカトリック」での学び

日本カトリック部落問題委員会

事務局長 根津 正幸

私は群馬県の高崎市に住んでいます。群馬県には有名な草津温泉があり、そこにハンセン病国立療養所栗生楽泉園(くりゅうらくせんえん)があります。療養所にはカトリック教会もあり、1990年以降教会の小学生や中学生たちと一緒に訪問し、療養所に宿泊させていただきました。

その後、1996年に「らい予防法」が廃止され、2001年にはハンセン病・違憲国家賠償訴訟で熊本地方裁判所が原告勝訴の判決。12月にハンセン病問題の全面解決のため、謝罪・名誉回復在園保障 社会復帰・社会生活支援 真相究明等の対策をとるとの確認が国と行なわれました。そして、真相究明にむけて厚生労働省の委託で「ハンセン病問題検証会議」が設置され、2005年3月に検証会議最終報告書がまとめられました。

私はこの最終報告書を読んで、これまでのハンセン病回復者の方たちとの関係のあり方の誤りを痛感させられました。最終報告書には、「なぜ宗教者は『隔離』



カトリック東北新生園教会

が見えなかったのか」とあり、隔離の非人間性を信仰の課題として捉えることができなかったこと、隔離を前提としてどう安らかに生きるのかを説き続けたことと指摘しています。そして、「救済の客体から解放の主体へ」という言葉が、今後の取り組みの方向を示唆していると述べています。

私は、仙台教区人権を考える委員会がつくったシンポジウムのチラシに大事なことがいくつも載っていると思いました。11月3日のシンポジウムに参加して、マザーテレサの言葉「愛の反対は無関心です」が心に響きました。

あけの星会 秋の巡礼と親睦会

県南地区の

大河原・白石教会巡礼

9月18日(火)あけの星会(仙塩地区連合婦人会・会長竹内淑子の親睦を兼ねた巡礼の旅を実施した。

参加者は、指導司祭の佐々木博神父ほか85名。バス2台に分乗して元寺小路教会を出発した。

大河原教会は105年の歴史を刻み、ステンドグラスのある趣深い教会で、内部にはルーベンスの「キリスト降架」の複製画があるのが有名である。

佐々木博神父、ホアン神父の共同司式でミサがささげられ「写真」、教会のため、世界平和のため、困難に直面している人々のため、ともに祈った。

白石教会は、57年の歴史があり、静かな雰囲気のある教会で、祭壇奥には今年中に大天使聖ミカエルのステンドグラスが完成すること。内部右側側面には、故深澤守三神父の放蕩息子の子のコンテ画が目を引く。ここでは、すべての信仰の基礎は家庭であることを再認識し、聖母マリアに倣って生きる恵みを



願ってロザリオの祈りをささげた。訪問した両教会は、準備を整えて私たち一行を温かく迎え入れてくれた。神父様方と信徒の方々のご配慮に感謝の巡礼となった。教会を後にしたバスは、小原材木岩、七ヶ宿ダムを巡り、祈りと親睦の一日を終了した。(塩釜教会 佐山淑子)

2008年5月20日(火)22日(木)、仙台市元寺小路教会を会場に、日本カトリック女性団体連盟第34回総会が「召命」のテーマで開催されます。加盟団体の仙塩地区連合婦人会(あけの星会)では、日本188殉教者はじめ全ての殉教者の信仰に倣い、召命の苗床である家庭の認識と、殉教者の信仰の証に生きることを開催地メッセージとし

08年「日力連第34回仙台総会」のお知らせ

20日は代議員制の総会と懇親会。21日は元寺小路教会から広瀬川殉教地への徒歩による巡礼、平賀徹夫司教の基調講演、分かち合い、日力連顧問の宮原良治司教(大分)司式の派遣ミサを計画しています。(自由参加のエキスカージョンは松島史跡見学。)22日解散。

日力連会員のみなならず、神父様、修道者、兄弟姉妹の信徒の皆様方に参加いただきたく、早々ながら、お知らせいたします。

(日力連理事 阿部正子)
電話・FAX 022 251 2791

告知板

あけの星会 黙想会
テーマ:『イエス と いのち』
講師: 聖パウロ女子修道会仙台修道院 Sr. 長谷川 昌子
日時: 2007年11月6日(火)10時~15時
場所: 元寺小路教会大聖堂
会費: 500円(昼食代含む)
締め切り: 10月28日(日)各教会のあけの星役員まで申し込んで下さい。
持参品: ロザリオ、名札
男性の参加を歓迎いたします。

各地から

青森県 弘前教会

ヨゼフ会秋の温泉へ

わが教会は、女性信徒が大変に活発で、男性信徒がおとなしい。ヨゼフ会（男性信徒全員が自動的に会員となる）も一度は休眠し、再活動して2年目。高齢者も多くなり、何かあったときに不安を感じる。そのためにもっと話し合える人間関係や場所がほしいという希望もあり、また神父様からも、もう少し男性同士が触れ合う機会を設けたらいいのではないかと助言もあり、温泉行きを計画した。

9月16日、今回は10名が参加入浴と昼食を済ませ、男性信徒



の名前を確認しあった結果、40名程の名前があがった。お互いの持っている情報を交換し合って、お互いのかかりを密にしていこうと話合った。

（ヨゼフ会会長 渡辺健二）

宮城県 元寺小路教会

朗読奉仕者講習会

9月30日（日）元寺小路教会にて、氏家和仁神父を講師に、ミサ・集会祭儀などにおける朗読奉仕者の講習会が行われ、仙台中央地区6教会から、信徒約50名が参加した。

「典礼奉仕への招き」（オリエンズ宗教研究所発行）第6章「朗読奉仕と聖歌奉仕」を参考にしながら、朗読奉仕をするときの準備や心構えを学んだ。

典礼は、神の救いの業を思い起こすことであり、神に対する賛美と感謝の集いである。ここで聖書が読まれるとき、それはキリストご自身が語るのであって、朗読者が、心の中で、キリストの言葉をしっかりと受け止めていなければ会衆に伝わらない。単に、朗読の上手下手ではなく、自分の信仰が問われている。朗読奉仕をすることが決まったときから、その箇所をしっかりと読み込んで、神から



のメッセージを自分の心の中に受け止めておくことが求められる。また、主日に読まれる三つの朗読箇所の関連と、ポイント（キーワード）を考え、黙想しておくことも大切である。普段の生活の中で、声を出して読むということはあまりないので、自分の声を聞きながら、声を出して読む練習をしてみると良い。また、何人かで、朗読準備会のようなことをして、互いに聞きあって高めあうことも良い。

キリストは、朗読者を通して、一人ひとり心の中に語ってくださるのですから、朗読を聞くとき、聖書と典礼の文字を追いながら聞くのではなく、「味わう」ということを大切にしてください。

その後、参加者の中から数人が、実際に朗読台に上がって、

朗読の実習をした。

参加者から、「朗読の際、演劇的な演出をすることはどうか」との質問に対して、氏家神父は、「臨場感を出すというようなことは、特に考えなくて良い。むしろ、よく聞こえるように、はっきりと読むことを心がけるべきだ」と回答した。

参加者は、朗読奉仕の重要性を再確認し、今までも考えないうで読んでいたことへの反省しきりであった。（岩井 誠）

福島県 野田町教会

10月7日はわたしたち野田町教会にとって、とても思い出に残る日となりました。それは平賀司教様に来ていただき、二つの大きな式を行うことができましたからです。ひとつは堅信式、もうひとつはマリア像の除幕式です。（1ページ写真参照）

数年ぶりとなる堅信式では6名の信者が堅信の秘跡を授かることができました。特に中高生のメンバーは部活などが忙しくて時間を合わせるのが難しかったため、勉強会をするのが大変でしたが、半年前から予定を立てて、みんなで夏休み前に1日をかけて勉強会を設けたり、それぞれに勉強会を設けたりと、時間をかけて式に臨

みました。

またこの堅信式で司教様に来ていただくのにあわせて、マリア像の除幕式を行い、司教様にマリア像の祝別をしていただきました。実は野田町教会の



外には今までマリア像がなかったのですが、今回、女性の会を中心として有志も募り、教会の入り口にマリア像を建設することができました。

二つの式のあとには司教様を囲んで、秋の明るく澄み渡った空のもと、鮭のバーベキューパーティーをしました。みんなの笑顔、特に教会の宝である子供たちの笑顔は、未来の教会への希望を感じることができました。これからはこのマリア像がみんなを教会へと温かく迎え入れ、見守ってくださいることと思います。（稲葉 景）

活動紹介

ケセン語訳聖書を楽しむ会

仙台教区のみなさんは、山浦玄嗣さんの「ケセン語訳聖書」の仕事のことはもうご存じだと思いますが、今日は、山浦さんを囲んで開催している「ケセン語訳聖書を楽しむ会」の様子をお知らせしたいと思います。この「楽しむ会」は開催場所が大船渡の公民館ということで敷居が低いせいも、参加者の半数弱が一般市民です。中には2時間かけて参加しているご夫婦もいます。

私の気分転換

西仙台教会 猪岡 光

私の気分転換はマンガを読むことです。手塚治虫の「鉄腕アトム」、「火の鳥」、「ブツダ」、横山光輝の「鉄人28号」などの古いマンガから、最近の「陰陽師」、「美味しんぼ」に至るまで、仕事の合間に時々読んでいます。人間の左脳は論理や言語、右脳はイメージ、直感に関係するとのことですが、左脳を使い過ぎたときに、マンガを読んで右脳を使うのが気分転換に良いのだらうと、勝手に解釈して

ました。これまでの2年間は、山浦さんが「ふるさとのイエス」や「走れ、イエス！」に書いた、ケセン語訳聖書を翻訳する上での様々な発見や気づきを話してくださいましたが、4月からは「マタイ」から系統的に話をしてください、「世界一聴いてみたい聖書講話」とも言えるような、楽しくイエスさまの心が身近に感じられる内容です。

20人くらいの少人数だけで聴くのはもったいないと、録音してCDに焼き、希望の方におわけする準備をしています。また、携帯で読むメルマガ「ミニまぐ」で週に4回、要約を配信します。日本でマンガがこれだけ普及したのはどうしてなのか、例えば、「美味しんぼ」が延べにして1億冊以上出版されたと聞くと、その理由を調べたいくなります。

マンガを「読む」と表現しましたが、実際はマンガを「見る」と言ったほうがよいかもしれません。教区報や仙台中央地区のお知らせなどにも、挿絵やイラストが挿入されることがあります。それらの絵は、文章だけでは表現できない何かを訴えております。



はじめました。

携帯電話またはパソコンで <http://mini.mag2.com/> へ行き、「ミニまぐ」トップの【キーワード検索】で「ケセン」を入力して検索すると、登録頁に行くことが出来ます。「楽しむ会」に参加できない方でも、ケセン語訳聖書の醍醐味をほんの少しだけですが楽しむことができます。是非購読してみてください。(熊谷雅也)

在俗会紹介

聖マリア在俗会 仙台地区

私たちの会は、女子信徒の「在俗会」です。残念ながら日本本の教会において在俗会はありません。新しい教会法によって在俗会は修道会と同じ聖別された奉獻生活の会と認められました。

本会は1954年、「聖母カテキスタ会」として日本で設立され、余年歩んできましたが、2006年 月 日に「聖マリア在俗会」と名称を変更しました。

日本に 名の会員がいます。そのうちの 名が仙台地区(本会の地区割制)にいます。秋田県(2)、青森県(4)、宮城県(5)、福島県(1)と広範囲にわたって福音宣教のため働いています。この地区のメンバーは小教区の司祭の協力、養護



新刊案内

『病気になっても病人にはなるな』―病氣中の内面的な歩み・生き方・闘い―
著者 ヴァルデマール・キツペス／発行 鹿児島市小山田町協業組合ユニカラー／定価 800 円＋税
著者はレデンプトル会所属のドイツ人神父。現在、久留米市聖マリア教育研修センター所長として、国の内外で心と魂の指導に従事している。

施設の栄養管理、一般企業で、また学校と、その仕事を通して福音的精神を浸透させるよう努力しています。第一線の現場から退いた会員の中には、保健師、服飾教師、茶道教師としての長年のキャリアを生かしてその道で奉仕し、社会がキリストの新しいさに変わることを願ってボランティアを喜んでしています。小教区においては、聖歌隊、教会の掃除、バザー、信徒の家庭訪問など、教会の活動に他の信徒の方々と協力し合いながら、聖母マリアをかがみとして使徒職に励んでいます。

会員は、信徒として社会の一般的な生活条件のもとで、教会が在俗会に託した使命、パン種として内部からこの世の聖化のために微力ながら力をそそいでいます。(成田友子)



在俗マリア会 仙台地区の会員

師は、2005年から2006年にかけての7ヶ月間に、ドイツの病院で、歯根の手術、心臓弁膜症の手術や白内障手術を受けた。これらの手術は70歳半ばの師にとつては大変なことであったと想像されるが、師は、パートIで病氣と治療の経過を淡々と述べて、冷静に病氣に向き合っている。本書の主要テーマは、パートIIで、特に心臓弁膜症の治療中の自己のスピリチュアルな内面的な体験や事柄を述べている。師は言う。極限(限界)状況においては、他者からの援助より自己の内面的パワーしか支えにならない。医療スタッフをはじめ周囲は身体的ケアを中心に置きがちであり、内面的な援助や刺激、力の元になるようなことは期待できない。だから、患者自身が日常において、内面的な生活(心・霊・魂)を育て、促進しておく必要がある。

本書は、病氣で苦しんでいる人に「癒し」と励ましを与え、病人を取り巻く人々の、病人への心配りに数々のヒントを与えてくれる。